

2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算補足説明資料



—やすらぎと安心の創造—

証券コード:5237

1. 2026年3月期第2四半期 連結決算の概要	P.3
2. 連結貸借対照表前期末比較	P.11
3. 連結キャッシュ・フローの状況	P.12
4. 連結経営指標（5年間推移）	P.13
5. 2026年3月期 連結業績予想	P.15
6. ESG経営への取り組み	P.17
7. トピックス	P.20

1. 2026年3月期第2四半期 連結決算の概要

1-1 連結損益計算書前年同期比較

(金額:百万円)

	2026/3月期 2Q 実績		2025/3月期 2Q 実績		増減		2026/3月期 2Q 8/7発表予想値	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率	金額	達成率
売上高	11,572		11,175		+396		11,200	103.3%
営業利益	1,116	9.7%	937	8.4%	+179	+1.3pt	1,060	105.3%
経常利益	1,213	10.5%	1,027	9.2%	+186	+1.3pt	1,140	106.4%
特別利益	5	-	15	-	▲10	-		-
特別損失	799	-	171	-	+627	-		-
親会社株主に帰属する 中間純利益	454	3.9%	577	5.2%	▲123	▲1.3pt	390	116.4%

当中間連結会計期間は、景気はインフレを伴って緩やかな回復基調にあるものの、一方で米国の政策リスクに対する警戒感を強めて推移し、企業の設備投資は慎重な姿勢が見られました。建築材料業界においても建設業界で深刻化している技能工不足に伴う供給力低下による建築工事停滞の影響を受け、厳しい状況が続いております。このような状況のなか当中間連結会計期間の業績は、経常利益ベースで前期比増収増益となりました。売上高については、一般建築向けであるアスロック売上高は減少しましたが、住宅向けで増収となり連結売上高は増収、営業利益、経常利益は、全社的なコスト削減に努めたこと等により増益となりました。親会社株主に帰属する中間純利益については訴訟損失が前期比増加したこと等により減益となりました。

1. 2026年3月期第2四半期 連結決算の概要

当上期の中期経営計画「全社三大戦略プラスONE」の実行状況

【収益拡大戦略】

収益拡大戦略では、主力の一般建築向け押出成形セメント板「アスロック」において、意匠・価格の両面でお客様のニーズに合致した商品の販売に注力

- 要望の多かった素地仕上品の新仕様「澄肌(すみはだ)」と「潤まだら(うるみまだら)」を前年度の後半に投入、その効果があったこと等から、当上期のアスロック素地仕上品の販売数量は前年同期比24%増加しました。
- また、2024年6月から2025年7月にかけて実施した「アスロックデザインパネルお試しキャンペーン」により、当社が競合優位性を持つデザインパネルなどの商談量が15%増加し、当社独自商品のデザイン性を改めてご評価いただく結果となりました。

【飛躍成長戦略】

飛躍成長戦略では、他社・他部材との差別化につながる商品の上市を推進

- 当上期は、セメントの素材感をそのままに活かした内装用スレートボード「ナチュラルレ」シリーズに、廃棄されていた牡蠣の貝殻をボードに織り交ぜた「シェルイン オイスター」を新たに追加し、5月に発売しました。
- ボード意匠に牡蠣の貝殻を用いることで従来のナチュラルレにはない新たな表情を生み出し、また、海洋資源の循環を促し廃棄物削減に貢献します。
- この他、お客様のニーズを踏まえ、独自性・優位性に主眼を置いた押出成形セメント板の商品開発を継続しました。

1. 2026年3月期第2四半期 連結決算の概要

当上期の中期経営計画「全社三大戦略プラスONE」の実行状況

【体質強化戦略】

体質強化戦略では、原価低減、品質安定に関する取り組みを実行

- ・ 厳しい事業環境下においても利益を確保するため、当上期は、NNPS(ノザワ・ニュー・プロダクション・システム)改善活動を各製造工程で展開、昨今の資源高で特に影響を受けている原材料・エネルギーに係るコストの削減を強力に推進した結果、製造原価を0.7億円削減することができました。
- ・ また、製品検査自動化の対象工程拡充を図るべく、当上期は3工程の自動化に取り組み、お客様からの信頼向上に努めました。

【プラスONE】

プラスONEでは、ESG経営に取り組む

- ・ 持続的な組織の成長に資する人材確保を目的として、2025年度も3年連続となる賃金ベースアップの実施、2026年度新卒採用者の初任給引上げ、有給休暇取得促進など、従業員エンゲージメント向上のための環境整備を行いました。
- ・ また、前期に引き続き、当期も取締役への譲渡制限付株式報酬の割り当てを実施し、企業価値向上に取り組みました。

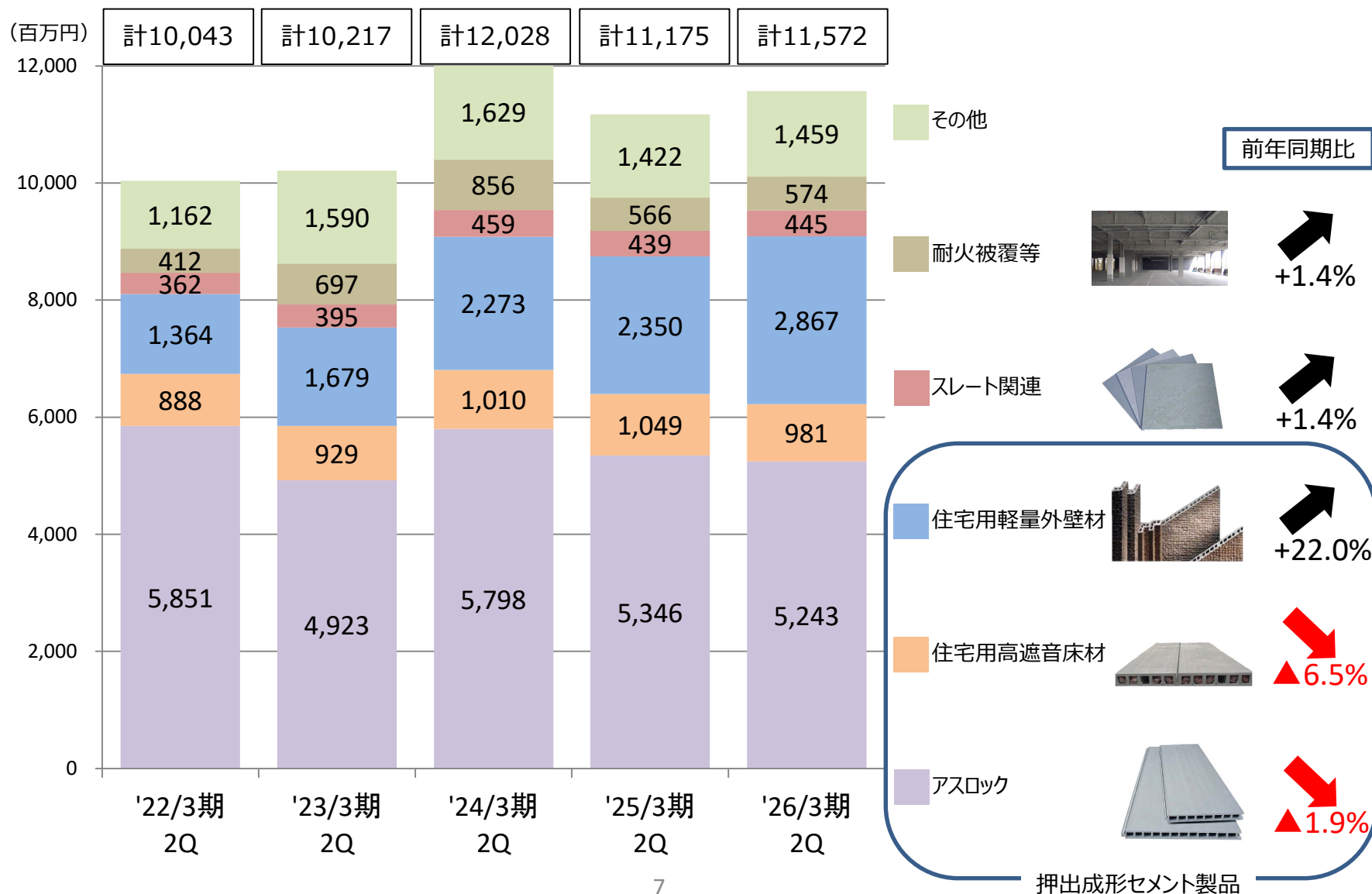
1. 2026年3月期第2四半期 連結決算の概要

1-2 売上高【前年同期比3億96百万円増収の115億72百万円】

- 建設業界は、業界全体における人手不足と残業規制による供給制約の深刻化や、建設費高騰による建設計画の中止・延期が相次ぎ、2025年1月～6月の非木造建築着工床面積は前年比5%ダウンと低迷しており、建設工事の停滞が顕在化し厳しい状況が続いております。
- このような状況下、当社グループは、中期経営計画である「収益拡大戦略」、「飛躍成長戦略」、「体質強化戦略」及びESG経営で構成される「全社三大戦略プラスONE」の戦略・施策を実行いたしました。
- これら三大戦略のうち、「収益拡大戦略」、「飛躍成長戦略」の実行により、当社グループ主力の一般建築向け押出成形セメント板「アスロック」においては、お客様のニーズを踏まえ、素地仕上品の新仕様2品種を投入した効果があったこと等から、素地仕上品販売数量は前年同期と比較して増加しました。
- その他、価格改定の浸透効果がありましたが、上記の厳しい市場環境や工期延長による出荷延期の影響により、アスロック売上高は前年同期比1億3百万円減収の52億43百万円となりました。
- 住宅向け押出成形セメント板は堅調に推移、「住宅用高遮音床材」は前年同期比67百万円減収となりましたが、「住宅用軽量外壁材」は前年同期比5億16百万円増収となり、住宅向け合計で4億48百万円増収の38億48百万円となりました。押出成形セメント板合計では前年同期比3億45百万円増の90億92百万円となりました。
- スレートボードは、好評をいただいているセメントの質感を活かした内装用ボード「ナチュラーレ」シリーズの出荷が安定して推移したこと等から前年同期比6百万円増収の4億45百万円となりました。
- 工事については、アスロック工事の増加等により前年同期比2億8百万円増収となりました。

1. 2026年3月期第2四半期 連結決算の概要

1-2 売上高 [連結品種別売上高推移]



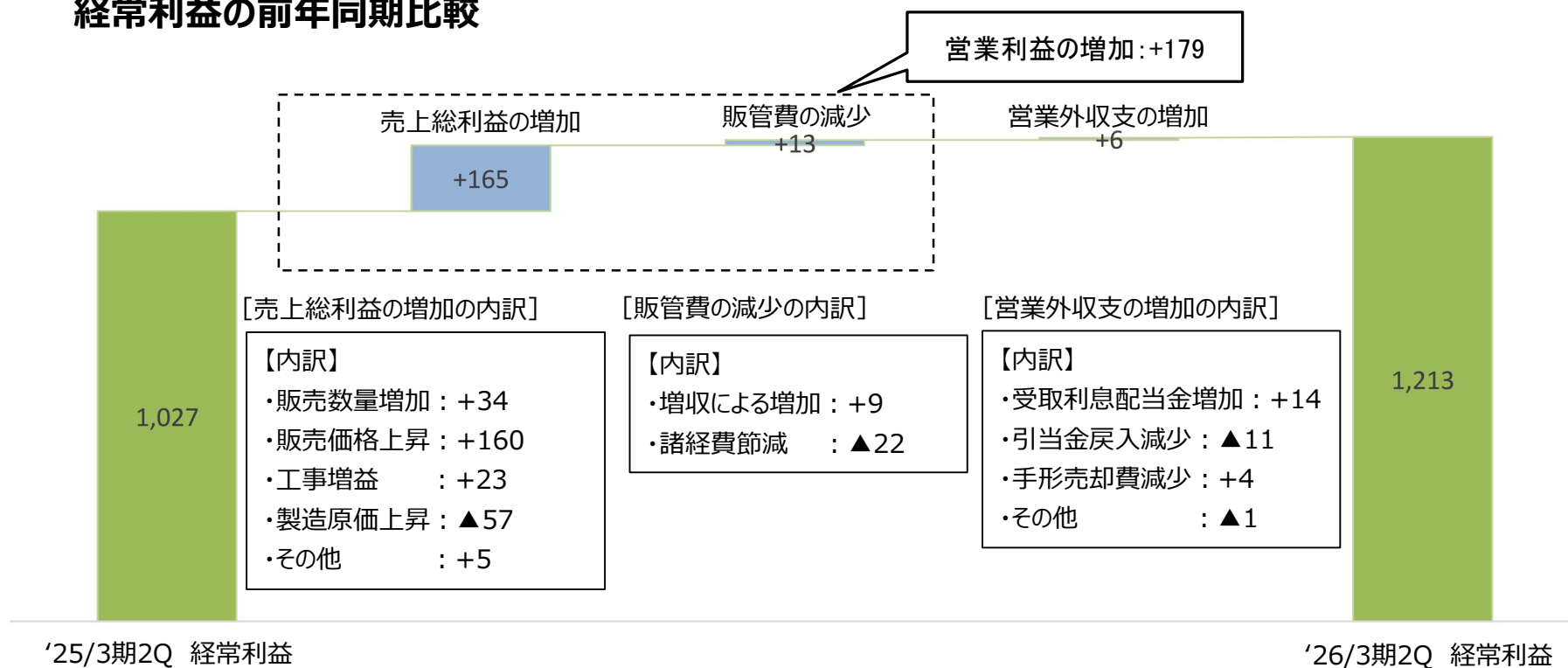
1. 2026年3月期第2四半期 連結決算の概要

1-3 各段階利益

[営業利益 前年同期比1億79百万円増益の11億16百万円]

[経常利益 前年同期比1億86百万円増益の12億13百万円]

経常利益の前年同期比較



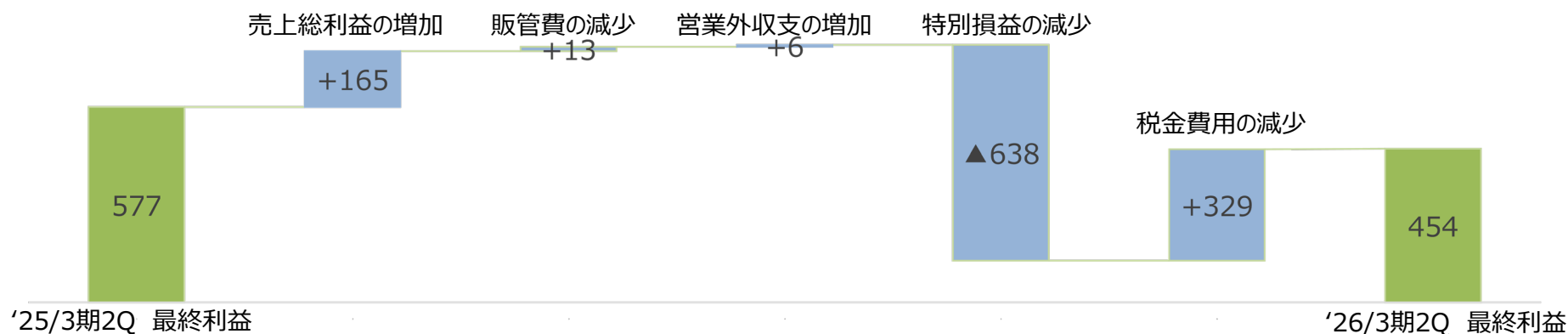
1. 2026年3月期第2四半期 連結決算の概要

- 当上期は、生産数量増による固定費負担減があった一方、物価上昇の影響等から原材料・エネルギー価格高騰や人件費・外注加工費の増加があり、これらにより製造原価は1.3億円増加しましたが、「体質強化戦略」に基づき、NNPS(ノザワ・ニュー・プロダクション・システム)改善活動を強力に推進し、原材料・エネルギー使用量の低減により、原価の上昇を0.6億円に留めました。
- 上記の原価上昇はあったものの、販売価格改定の浸透効果や販売数量増加による増益要因があったことから、販売口売上総利益は1.4億円の増益となりました。
- 工事については、売上高が2.0億円の増収となったこと及び子会社であるノザワ商事の採算性改善が寄与し、工事口売上総利益は0.2億円の増益となりました。
- これらのことから、連結売上総利益は前年同期比1億65百万円増益の33億13百万円となりました。
- 販管費については、前年同期比13百万円減少の21億96百万円となりました。増収による変動費の増加がありましたが、全社的な諸経費節減が奏功し前年同期比減となり、売上高比販管費率は0.8ポイントダウンの19.0%となりました。
- これらのことから営業利益は前年同期比1億79百万円増益の11億16百万円となり、営業利益率は1.3ポイントアップの9.7%となりました。
- 営業外収益は、前期に計上していた各引当金戻入益11百万円が減少した一方、受取利息及び配当金が14百万円増加したこと等から、結果前年同期並みで推移しました。
- 営業外費用は、手形売却費が4百万円減少したこと等から、前年同期比6百万円減少となりました。
- これらを併せた営業外収支の合計は前年同期比6百万円の好転となり、経常利益は、前年同期比1億86百万円増益の12億13百万円となりました。

2. 2026年3月期第2四半期 連結決算の概要

〔親会社株主に帰属する中間純利益 前年同期比1億23百万円減益の4億54百万円〕

最終利益の前年同期比較



- 特別利益は前年同期比10百万円減少の5百万円となりました。前期に為替換算調整勘定取崩益15百万円を計上していたことによります。
- 特別損失は前年同期比6億27百万円増加の7億99百万円となりました。主に訴訟損失が6億42百万円増加したことによります。
- これらの結果、特別損益の合計は7億94百万円の損失となり、前年同期比では6億38百万円悪化となりました。
- 上記に税金費用を加え、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比1億23百万円減益の4億54百万円となりました。

2. 連結貸借対照表前期末比較

【連結貸借対照表 主な前期末比増減】

科目	増減額	科目	(百万円) 増減額
流動資産		流動負債	
現金及び預金	▲497	支払手形及び買掛金	+162
受取手形及び売掛金等	+627	未払法人税等	▲323
棚卸資産	▲62	賞与引当金	+2
その他	+35	その他	+989
計	+103	計	+830
固定資産		固定負債	
有形固定資産	▲28	退職給付に係る負債	▲38
無形固定資産	▲20	訴訟損失引当金	▲578
投資有価証券	+695	その他	+127
その他	▲3	計	▲489
計	+643	負債計	+341
		純資産	
		資本剰余金	+5
		利益剰余金	▲14
		自己株式	+4
		その他有価証券評価差額金	+405
		その他	+4
		純資産計	+405
資産計	+746	負債純資産計	+746

【総資産の増減】

総資産は前期末比7.4億円増加。
主に投資有価証券が6.9億円増加したことにあります。

【負債の増減】

負債は前期末比3.4億円増加。
主に訴訟損失引当金が5.7億円減少、流動負債のその他が9.8億円増加したことにあります。

【純資産の増減】

純資産は前期末比4.0億円増加。
主にその他有価証券評価差額金が4.0億円増加したことにあります。

3. 連結キャッシュ・フローの状況

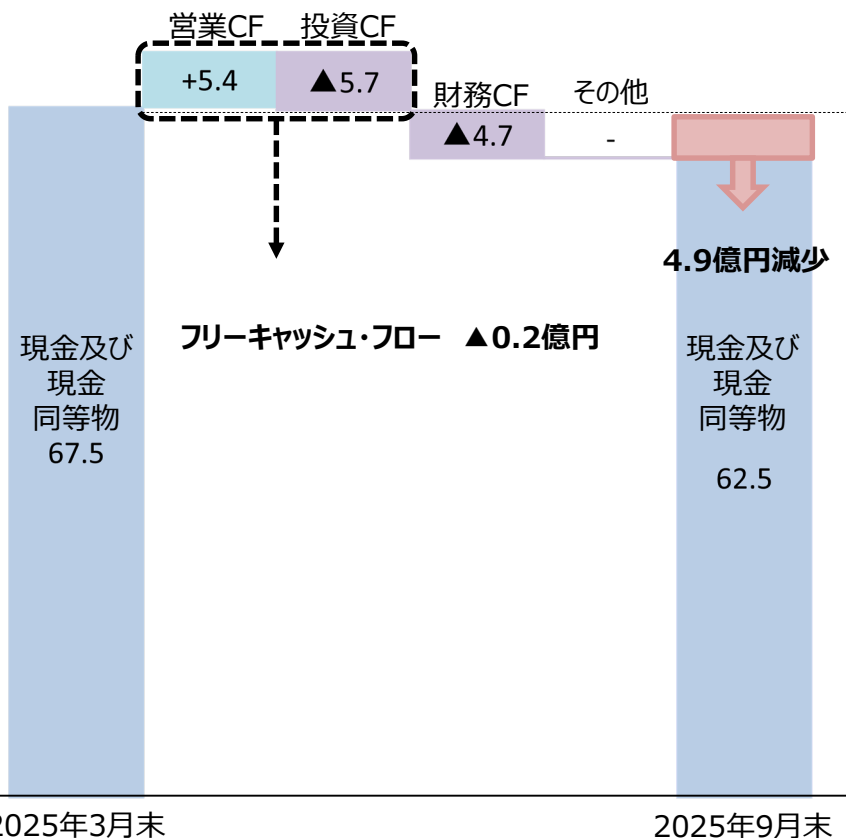
- 営業キャッシュ・フローは+5.4億円、投資キャッシュ・フローは有形固定資産の取得等により▲5.7億円となり、フリーキャッシュ・フローは▲0.2億円。財務キャッシュ・フローは▲4.7億円。
- 上記の結果、当上期末の現金及び現金同等物は前期末比4.9億円減少の62.5億円。

【現金及び現金同等物の増減内訳】

(億円)

【連結キャッシュ・フロー計算書 概要】

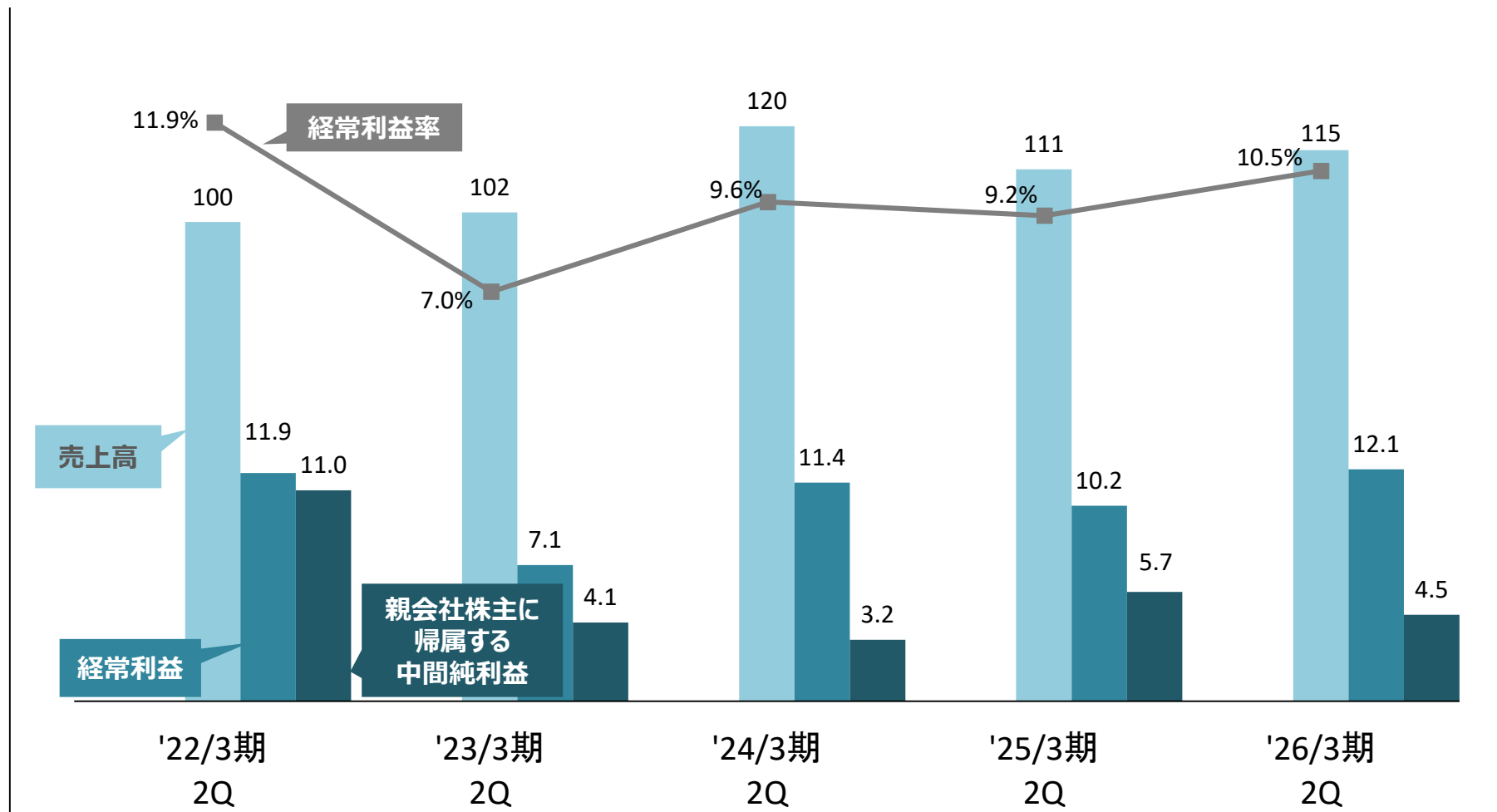
(百万円)



税金等調整前中間純利益	419	
減価償却費	405	
売上債権の増減額	▲592	
棚卸資産の増減額	62	
仕入債務の増減額	319	
その他	▲64	
営業活動によるキャッシュ・フロー計	549	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲571	主に有形固定資産の取得
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲474	主に配当金の支払い

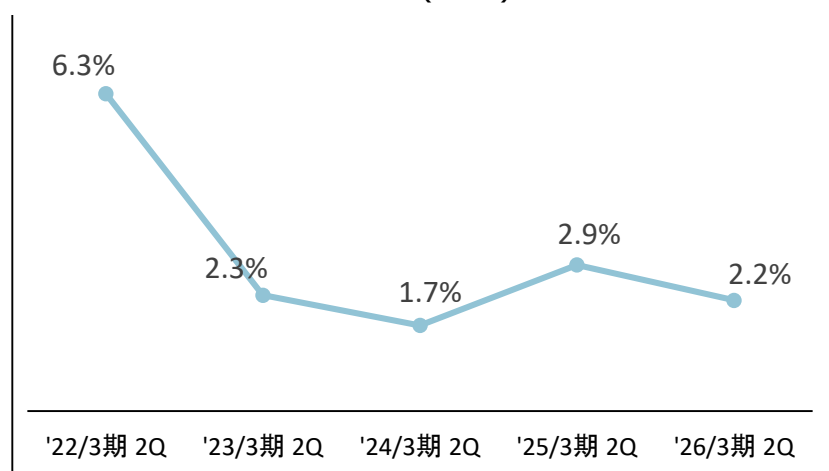
4. 連結経営指標推移（第2四半期）

売上高、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益（億円）並びに経常利益率

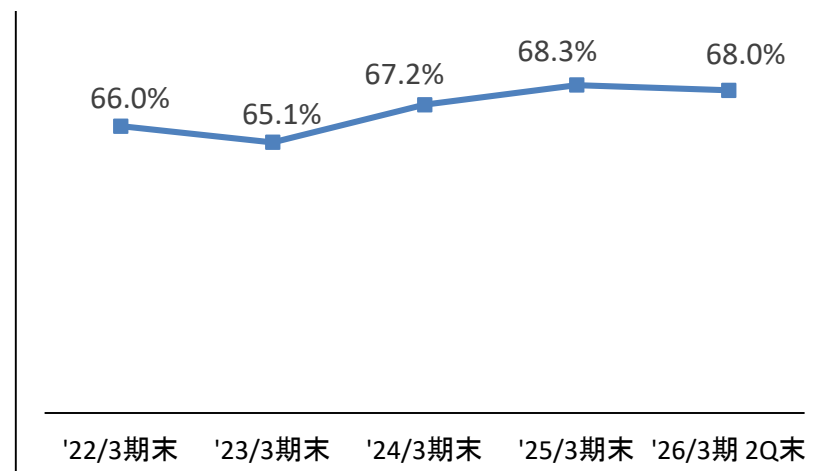


4. 連結経営指標推移 (第2四半期)

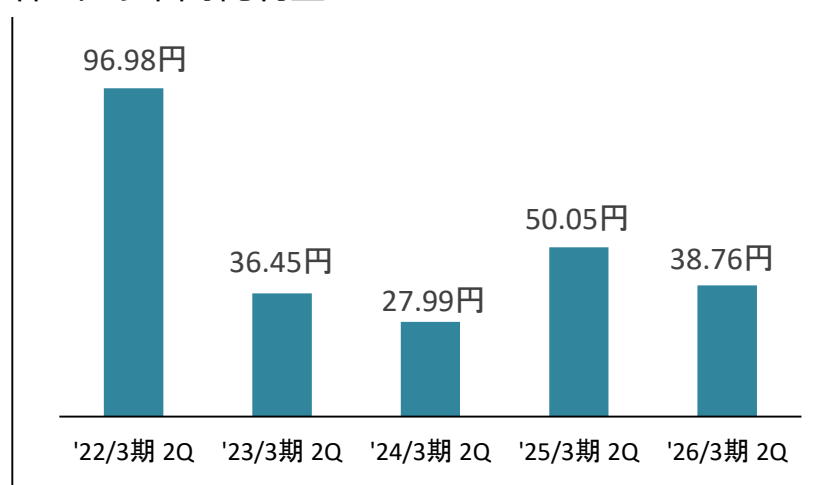
自己資本中間純利益率(ROE)



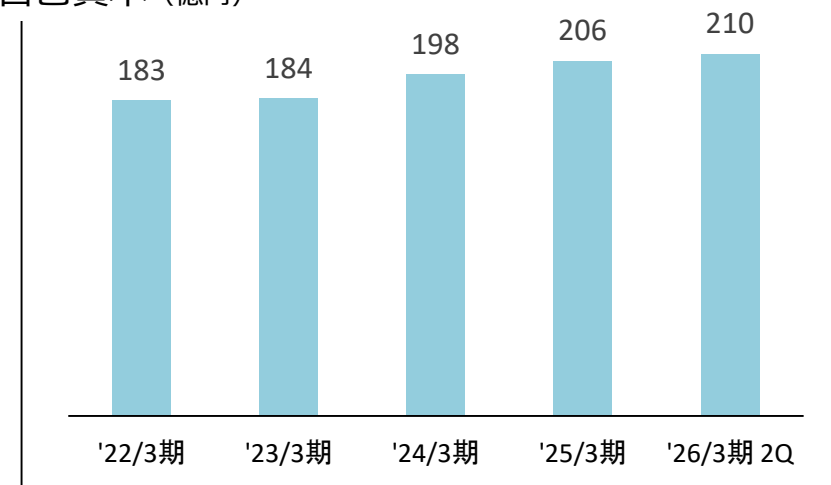
自己資本比率



1株当たり中間純利益



自己資本 (億円)



5. 2026年3月期 連結業績予想

(金額:百万円)

	2026年3月期 予想値		2025年3月期 実績		増減 (2025年3月期実績比)	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	利益率
売上高	22,500		21,954		+545	
営業利益	2,070	9.2%	1,680	7.7%	+389	+1.5pt
経常利益	2,190	9.7%	1,838	8.4%	+351	+1.3pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,070	4.8%	1,156	5.3%	▲86	▲0.5pt

通期の連結業績予想につきましては、現時点では2025年8月7日に公表いたしました業績予想から変更ありません。

6. 2026年3月期 業績予想

【通期業績予想は当初予想から変更なし】

- 当上期の売上高は、予想に対し3.9億円増の微増となりました。下期の売上高については、主力のアスロック販売は上期の横ばい程度で推移し、通期では8月7日に公表した予想値並みになるものと見込まれます。
- 利益面についても、当上期実績は予想に対し微増となっております。下期も引続き厳しい事業環境が続くことが想定されますが、概ね現状の予想どおり推移すると見込まれることから、通期の営業利益・経常利益・親会社に帰属する当期純利益につきましては、現時点では8月7日公表の連結業績予想から変更しておりません。

6. ESG経営への取り組み

環境（Environment）…………カーボンニュートラル

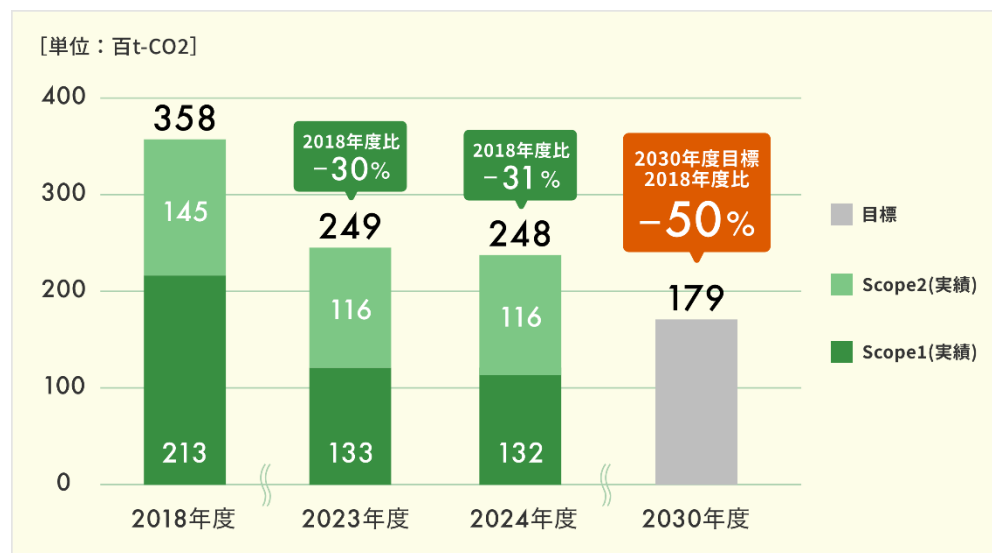
温室効果ガス排出削減目標に対する進捗状況

当社は2030年までに温室効果ガス排出量（Scope1・2※の合計）を2018年度比50%削減する目標を掲げています。

2024年度はScope1・2排出量を2018年度比31%削減、2030年度目標に対して目標達成率62%となり、順調に排出量を削減しています。

今後も目標達成に向け日々削減活動に取り組んで参ります。

※Scope1：自社による温室効果ガスの直接排出 Scope2：他社から供給された電気・熱の使用に伴う間接排出



温室効果ガス排出量

6. ESG経営への取り組み

社会 (Social) ……採用計画の達成

2026年度新卒初任給改定実施

当社は、持続的な成長と企業価値の向上を目指し、優秀な人材の確保と育成を重要な経営課題と位置づけています。その一環として、2026年度より初任給の改定を実施、初任給の引き上げは2022年より4年連続となりました。

	現行(2025年度)	改定後(2026年度)	引上げ率
大学院卒(博士)※ ¹	245,830円	264,480円	7.6%
大学卒※ ¹	231,350円	250,000円	8.1%
短大・専門・高専卒※ ¹	225,150円	235,150円	4.4%
高校卒※ ²	213,950円	223,950円	4.7%

※¹ 首都圏勤務の場合 ※² 播州・高砂工場勤務の場合

6. ESG経営への取り組み

企業統治（Governance）……………公正・透明な経営

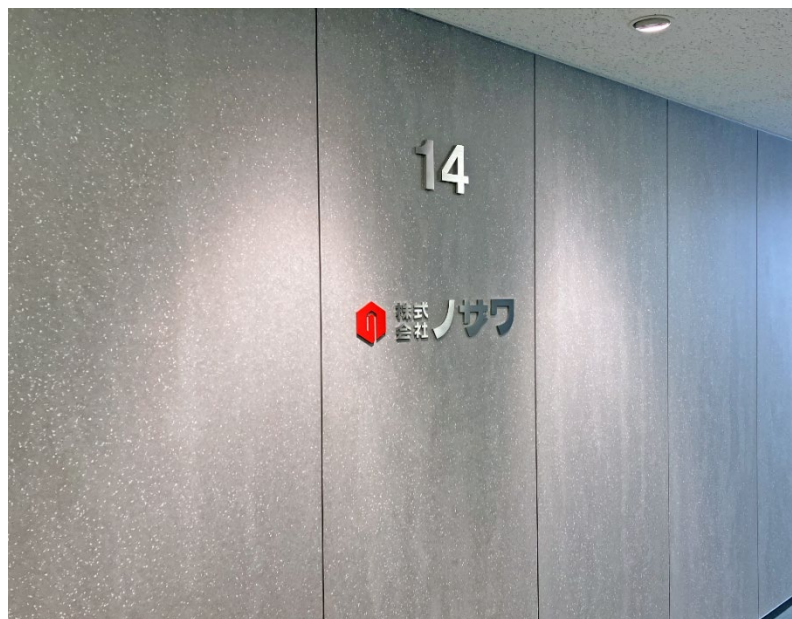
2025年7月取締役への譲渡制限付株式割当て

当社は、当社の取締役（社外取締役を除く。）が株価変動のメリットとリスクを株主の皆様と共有し、株価上昇及び企業価値向上への貢献意欲を従来以上に高めることを目的として、当社の取締役（社外取締役を除く。）に対し、譲渡制限付株式を交付する株式報酬制度を導入しており、2025年度は11,766株の割当てを実施いたしました。

7. トピックスー新商品発売

「ナチュラーレ(NATURALE)」シェルインオイスターを 2025年5月に発売

「ナチュラーレ」の新商品「シェルイン オイスター」を2025年5月に発売しました。
リサイクルした牡蠣殻を原材料として使用、SDGs目標12「つくる責任 つかう責任」に貢献する取り組みの一環として、資源循環型社会の実現に寄与する商品です。
今後も、持続可能な社会の実現を目指し、環境に配慮した製品開発を積極的に進めてまいります。



当社本社ビル「15番館」 14階エレベーターホール
「ナチュラーレ(NATURALE)」シェルインオイスター



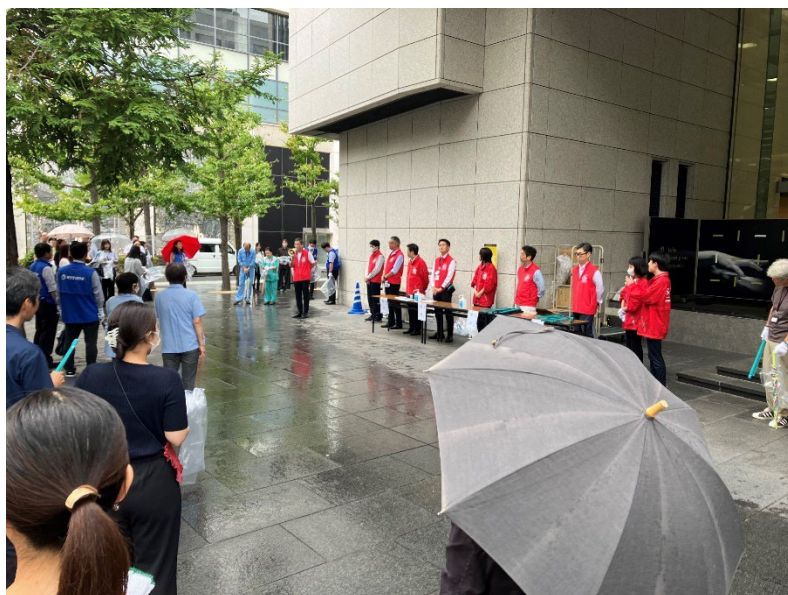
牡蠣殻

7 . トピックスー社会貢献活動

神戸旧居留地クリーン作戦

当社は地域社会との共生を大切にし、地域貢献活動に積極的に取り組んでおります。その一環として、2025年10月16日に旧居留地連絡協議会が主催する「神戸旧居留地クリーン作戦」に参加しました。

当日は小雨が降る中、多くの企業の皆様とともに、神戸旧居留地の美化活動に取り組みました。



クリーン作戦開始あいさつの様子



旧神戸居留地十五番館前での美化活動

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後さまざまな要因によって大きく異なる可能性があります。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。